

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、佐鳴台圏域） 第2回会議 議事録

開催日時	令和4年9月20日（火）9時30分から11時30分まで
参加者	委員：14人 事務局：10人 その他：3人（国保年金課 3名）
場所	西部協働センター ホール
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 佐鳴台・城北地区生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3. 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について</p> <p style="text-align: right;">【浜松市高齢者福祉課】 【浜松市国保年金課】</p> <p>浜松市国保年金課より、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について」の説明が行われた。</p> <p>この事業では佐鳴台圏域の後期高齢者（R3年度後期検診未受診で医療レセプト・要介護認定のない者）を対象者とし、健康寿命の延伸に関するアンケートの送付を行った。その回答内容から支援が必要な人、回答のない人への訪問を実施し、状態把握及び必要なサービスのつなぎを実施した。</p> <p>事業の周知を本協議体で行うことで、自治会長や民生委員への質問事項の対応や、訪問を今後行っていくということに関する理解を得た。</p> <p>4. 城北南、城北北、佐鳴台地区圏域ケア会議の内容について</p> <p style="text-align: right;">【地域包括支援センター佐鳴台】</p> <p>地域包括支援センター佐鳴台より、今年7月・8月に行った「圏域ケア会議」の内容について説明があった。</p> <p>圏域ケア会議では、民生委員、ケアマネジャー、関係機関が参加。大規模災害時の高齢者支援をテーマに講義やグループワークを行った。</p> <p>グループワークの報告については、抜粋した内容を地域包括支援センターより紹介。その内容をもとに各地区で現状について確認を行った。</p> <p>5. 第1回協議体会議の振り返り</p> <p>第1回協議体会議の内容について、生活支援コーディネーターよりパワーポイントを用いて説明を行った。</p> <p>6. 城北南・北地区民児協へのアンケート調査の紹介 【城北地区】</p> <p>城北南・北地区民児協へ行った、アンケート形式のニーズ調査について、内容の報告をCSWより行った。</p> <p>城北地区にはスーパーがないため、買い物に行くことが高齢者の負担になっている。また、民生委員としてあったらいいと思う仕組みについて移動販売を求める声があがっていた。その他、日常生活のアクシデントや、どこに相談したらいいかわからないことなどが民生委員に寄せられていた。そのため協議体では、対応できるサービスがない事柄について既存の仕組みの支援や、新しい生活支援体制づくりの協議を行っていく必要がある。</p> <p>7. 地域の集いづくりについて 【佐鳴台地区】</p> <p>『水戸市社会福祉協議会 まちイス「・・・掛けてください」プロジェクト』について、パワーポイントを用いてプロジェクト設立までの流れを紹介した。佐鳴台地区と同様にプロジェクトが進められていると思われるため、今後も参考にしていく。</p>

8. 各地区でのグループワーク

【城北地区】

- ・高齢者の困りごとについて居場所への参加があるが、参加したい・したくないなど様々な人がいるため、居場所への積極的な参加ではなく好きなように地域で過ごせるようにする支援が必要だと思われる。
- ・買い物支援については、現状で困っている方もいれば、今後5年・10年後に困る方が出てくるなど継続した課題であると思われる。
- ・城北地区社協でも買い物支援の必要性について議題にあがり、移動販売の誘致について検討を進めている。
- ・買い物は誰かに頼むより、自身の目で見て買物をしたいと思われる方がいる。
- ・移動販売の開始については地区社協だけではなく、自治会や民生委員とも協力をしていきたい。そのため、協議を重ねた上で、モデル地区などの選定を行ってきたい。
- ・移動販売の場所があれば、そこに椅子などを置くことなどで新しい居場所を作ることができる。
- ・今回の民生委員へのニーズ調査は今後の民児協での詳しいフィードバックが必要だと思われる。今後、フィードバックを行っていく。

【佐鳴台地区】

- ・最近地区内にある駄菓子屋の前にベンチが設置されるようになった。子どもたちがよく利用し、集まりとなっている様子。
- ・商店の軒先利用については、個々の商店から始めていき徐々に全体への活動としていけたらよいと思う。
- ・蜷塚公園を利用する方が多い。ラジオ体操をやっているなど交流の場となっている様子だが、遠くて行くことが大変だという方はいる。
- ・大学によっては、卒業制作などでベンチの作成を行っていることがある。そこと協働することも考えられる。
- ・ベンチ制作や花壇の手入れなど、地域住民が一緒に何かをすることでつながりが生まれるといいと思う。
- ・今後、モデル地区を設定し高齢者が集まりやすい場所を考えていく。

9. 事務連絡

- ・地域包括支援センター佐鳴台より、9月28日に地区社協 家事支援活動と、ケアマネジャーとの交流会を検討している。内容については、また報告をしていく。

10. 閉会 佐鳴台・城北地区生活支援体制づくり協議体 副会長 大澤 一夫

今後の見通し等

城北地区では、民児協へのニーズ調査のアンケートをもとに協議を行った。今後も生活支援体制づくりの仕組みとしてできることについて協議を行う。

佐鳴台地区では、居場所づくりのためにベンチの設置について協議を行った。今後は、モデル地区の選定などを行っていく。